福島県教育庁買取型　Future STEAM Lab 整備事業

現地説明会

次　第

日時：令和８年１１月４日（水）

１１：００～１２：００

会場：福島高校

１　開　会

２　説明事項

N-E.X.T. ハイスクール構想の概要及び F- N-E.X.T.（福島県・福島高校）の取り組み

３　現地見学

見学概要及び留意事項について

４　閉　会

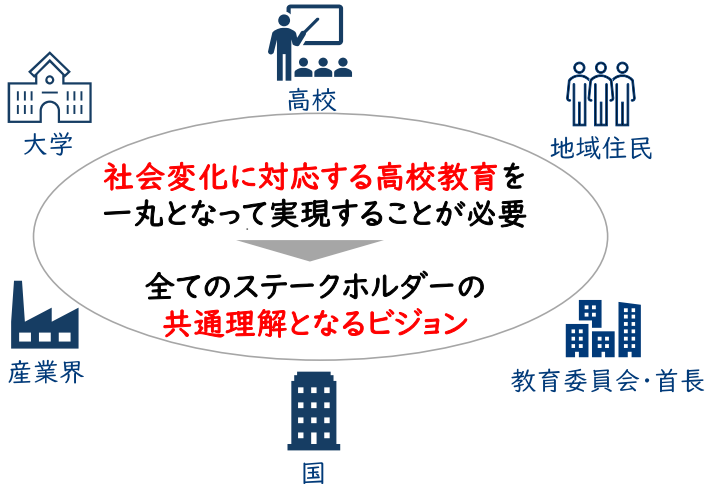
高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】
～2040年に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

1. グランドデザインの背景・必要性

✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、労働力需給ギャップが発生
（事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足）

✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
→生徒それぞれの多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現を支え、生徒の可能性を広げ能力を伸ばす
→全ての高校生が家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等をし、それが個人の幸福につながり、ひいては、我が国の経済・社会の基盤を強いものとしていくことにつながる



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

学びの在り方の転換（New Transformation）

✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の改善、公表
✓ 高校教育と一貫した大学教育改革（主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等）

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化（New Excellence）

✓ 探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
➡ 理数・文系的素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感

✓ 各高校の特色化・魅力化
➡ 学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成
➡ 「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

学ぶ機会・アクセスの確保（New Education）

✓ 全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
（地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進）
✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上
✓ 不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

国の
高校教育改革に関するグランドデザイン策定

都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

安定財源を確保した上で、
交付金等の新たな財政支援の仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化（アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等）

（学校のイメージ）
地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化（文理の双方の素養を有する人材の育成等）

（学校のイメージ）
文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保

（学校のイメージ）
学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】
・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校：100%
・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】
・文理横断的な学びに取り組む普通科高校：100%
・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合：同程度

【多様な学びの確保関係】
・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

福島県高等学校等教育改革促進事業　F-N-E.X.T.～Fukushima,Future,Frontier～

地域・大学・企業・研究機関との強力な連携により、福島の未来を担う人材を育成する

人材育成上の６つの課題

①人口減少・若者流出の進行	②理工系人材の不足	③産業構造の変化に対応する人材不足	④探究活動から社会実装への発展の課題	⑤地理的・基盤的制約による学習機会格差の課題	⑥人口減少社会に対応した学びの多様性確保の課題
高校生の減少や県外流出（特に女性）が進み、将来の担い手が不足。	理工系大学への進学率が低く理工系人材が不足。地域間での偏りも存在。	イノベ構想を踏まえた製造業の高度化や新産業の創出に対応できる人材が不足。	探究の成果が社会とつながりにくく、実装に至っていない。	地域によって教育機会・学習環境に格差がある。	学科横断・小中高大一貫した人材育成や学校単位に依存しない持続可能な教育体制が必要。

基本理念

地域・大学・企業・研究機関と連携し、探究的かつ地域課題解決につながる学びを通して、
福島県から、未来社会を切り拓くイノベーションを創出し、持続可能で豊かな地域社会を実現する

事業計画

３つの類型による高校教育改革を先導し、成果を県内全体へ波及

類型１　アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援
産業直結型の人材育成

拠点校：福島工業高等学校
協力校：二本松実業、会津工業、小高産業技術

目指す姿
福島イノベ構想を踏まえ、地域産業の発展と高付加価値化を支える実践力を備えた産業直結型人材**「フィジカルＡＩクリエイター」「エネルギーインテグレーター」**を育成

主な取組
- ☑ 学科の枠を超えた**共通科目「フィジカルAI・エネルギーシステム」の創設**や**データサイエンス・AIに関する学習高度化**などのカリキュラム改革
- ☑ **専門ラボ整備による新たな学習環境**でのロボット・ドローン・AI・再エネ・水素の活用による実践的・ 探究的な学びを推進
- ☑ **企業・大学等と連携した課題解決学習**や**企業実習**
- ☑ **「地域連携みらいテックスタジオ」**による小中学生向けイベントによる裾野拡大、**新たな設備を活用した教員研修、女性を含む多様な人材の参画**

指標例　県内企業への就職率UP、女子生徒の入学者数UP

類型2　理数系人材育成支援
価値創造型の人材育成

拠点校：福島高等学校
協力校：安積、会津、磐城



目指す姿
福島をフィールドに探究から社会実装までの一貫した学びを通して、社会課題を解決し、新たな価値を創造するイノベーション人材を育成

主な取組
- ☑ **研究と創造をつなぐ科目「STEAM探究・STEAM情報」**を創設し、**教科横断的なSTEAM教育の展開**
- ☑ 大学・研究機関・企業等との研究者が継続的に助言する**研究者伴走支援プログラムにより生徒の研究を支援**
- ☑ **STEAM教育の拠点施設「Future STEAM Lab」**を整備し、**実験・分析から創造、共有、発信までの一体的な学びを推進**
- ☑ **高校生と研究者が日常的に交わる「サテライト研究室」を**「Future STEAM Lab」に設置
- ☑ 「Future STEAM Lab」をハブに、**最先端の指導ノウハウを全県へ波及し、福島への「人材還流」を促進**
- ☑ **理数系（特に女性）人材の育成・進路支援**

指標例　大学理系学部への進学希望者数UP
将来、福島で生活したい生徒数UP

類型３　多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保
機会保証型の全県展開

拠点校：郡山萌世高等学校
協力校：川俣、湖南、石川、猪苗代、西会津、川口、只見、勿来

目指す姿　学習機会の格差を解消し、どこにいても、だれもが学び続けることができる包摂的な学習基盤を創出

メインターゲット

通信制課程の生徒	小規模校の生徒	定時制課程の生徒
		
自分のペースで学べる環境を整備	科目選択の充実を図る	VR教材を用いた授業を展開

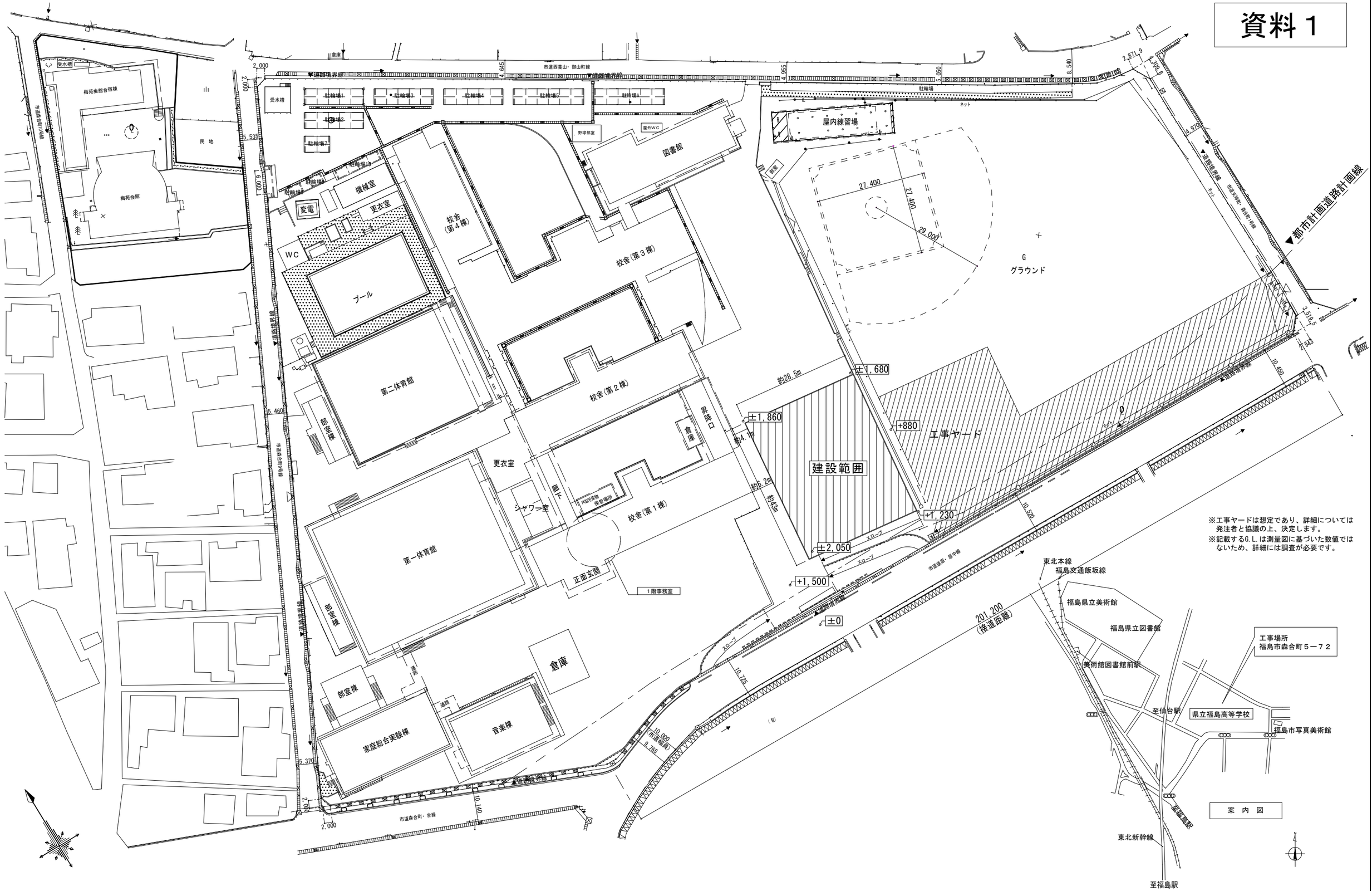
主な取組
- ☑ **VR空間「マナビバース」による居場所づくり・学習支援（AIチューター等）**
- ☑ **地域サテライト拠点での居場所づくり・対面支援（交流・進路相談・学習支援）**
- ☑ **遠隔授業・オンデマンド課外の活用（選択科目の充実・小規模校への同時配信）**
- ☑ **VR教材の活用による授業の質向上**
- ☑ **クロスミッション・学校間協働による探究活動や交流の推進**
- ☑ **遠隔でも地域とつながる環境の整備**

指標例　サテライト利用者数の拡大・遠隔授業による科目選択の充実
進路未決定者の減少

【主な連携機関】

福島大学　会津大学　福島県立医科大学　県内企業等
F-REI 福島国際研究教育機構　福島イノベーション・コースト構想推進機構　福島県産業教育振興会

資料１



福島県立福島高等学校		承諾	承諾	担当	完成図	縮尺	1/600	工事名称
						年月日		図面名称 案内図・配置図